



2024年度

Peach Women's Business School

第5回

登壇者：帝塚山学院大学 リベラルアーツ学部 教授

Link Next 社会研究所 所長

飛河 智生 氏

講演テーマ：「キャリアデザイン」



※ アンケートは受講者の回答をそのまま転記しております

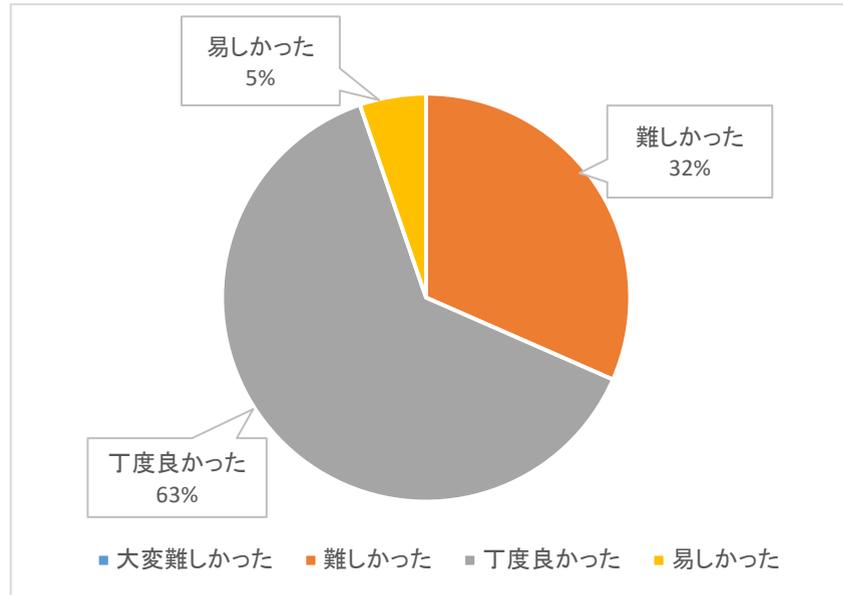
2024年度PWBS 第5回アンケート集計結果

研修日：2024年9月26日(木)

登壇者：帝塚山学院大学 リベラルアーツ学部 教授、Link Next 社会研究所 所長 飛河 智生 氏

講演テーマ：「キャリアデザイン」

(1) 今回の研修の難易度はいかがでしたか。【大変難しかった、難しかった、丁度良かった、易しかった】



2) 研修を受講して役立った事、新たに知った事、もっと学びたい事は何か。

事前に資料を拝見させていただいた際は、正直プレッシャーを強く感じていました。さまざまな知識やスキルを持って継続的に磨きをかけていくことが求められ、それができない場合は淘汰されていくということに対して、覚悟が持てるのだろうか、不安な気持ちが今もあります。しかし、キャリアデザインの講義全体を通して、必要以上に悲観的に考えるのではなく、自身のやるべきことを見つけていきたいという気持ちに切り替えることができました。特に、飛河先生にもお伝えさせていただきましたが、「やりたいこと」や「夢」の捉え方が変わったということが、自分にとっては一番大きかったです。何らかの形で役に立ちたいという強い感情を持っているにも関わらず、自分の中に「やりたいこと」という前向きな欲求がないことに、これまでかなり劣等感をもっていました。先生の講義を伺って、まずはもっと視野を広げ、出来ないことで躓くのではなく、出来ること・分かることから向き合っていこうと考えています。

そして、現在の仕事についても、目の前のことだけでいっぱいになったり、はたまた自身から離れた問題を解決しなければと悩むことに苦悩する前に、自分がその仕事を通してどのような「価値」を届けられるのかという視点で考え、基軸をしっかりと置いた上で向き合っていけるよう、より学びを深めていきたいです。

実際の人生の時間に比べ、体感時間は短くなっていくことが衝撃的でした。30歳くらいで折り返し地点であるとの意識を持っていないと、あっという間に人生が終わってしまいそうです。

また、今後求められる社内研修のあり方として、その組織に適応できる人材をトップダウン的に育成するのではなく、「(上司たちにとって)未知の問題に未知の方法で対処する」観点から、若手の挑戦をサポートしていく逆三角形型の組織作りが重要であることも大きな学びでした。

28歳時点で人生の50%地点にいるとの内容に非常にショックを受け、キャリアに対して与えられるものを受け入れるだけでなく、主体的な考えが必要だと実感しました。その中で特に社会に関する知識やビジネスの基礎が自分に不足している自覚がある為、学んでいきたいと思えます。

・40歳を目前に、今後のキャリアについて不安を感じていましたが、今の仕事に全力を注ぎながら、自分のストーリー・テーマを見つけるという手法を知り、是非実践したいと思いました。

・ドリームハラスメントという言葉を知り、子供(中学生)にプレッシャーをかけてしまっていたことを反省しました。

・キャリア発達の具体的な方法について学んでみたいと思います。

「人生は意外と長くない」というのが印象に残りました。人生100年時代とはいえ、澆漑とキャリアを築ける時間は意外と短く、しっかりと今と未来を見据える必要があると感じました。

自身のキャリアパスを通して今後のキャリア計画が実を持った内容になること。
主体性をもって自己経営を実行するために社会的な知識を習得する。自分のポジションを作り、自身の提供価値を見極める必要があると実感しました。

「キャリア自律」という言葉を初めて聞きました。
その大切さと行動を変える難しさを学べたと思います。
自分なりの成長スタイルを持つために「自分が今何をすべきか」を考える必要性を実感しました。
まずは、自分はどうしたいか、自分ならどうするか、を意識して少しずつでも自ら行動していこうと思います。

「キャリアデザイン」セミナーに参加して、自己責任の時代に生きているという現実を強く実感しました。これからは、自らのキャリアを主体的にデザインし、時代に合わせて自己をアップデートし続けることが不可欠だと認識いたしました。
かつての終身雇用の時代から、自律的にキャリアを築く時代へと大きくシフトしていき、またAIの台頭やジョブ型雇用の浸透により、この変化はさらに加速すると予想されます。そのため、自身のスキルを客観的に評価し、なりたい姿とのギャップを明確にすることが重要であると感じました。
今後は、セミナーで配布頂きました資料を活用し、自分だけの独自の価値を創造できるよう、新しい成長スタイルを確立していきます。そのために、持つべき能力の3分野6要素を意識しながら、自己のセルフマネジメントを実践し、定期的にキャリアプランの見直しを行っていきます。

覚悟年齢の話が最も印象に残りました。まだ人生は長いと思っていたのですが、思っている以上に、今すぐにも取り組まないと時間が足りなくなるととても焦った気持ちになったので、10年後の自分のありたい姿を考えて計画的に物事に取り組もうと思いました。また、ギャップの大様ゲームが盛り上がったので、新しいチームで仕事をするときなどに使ってみようと思います。

今までは会社がある程度の個人のキャリア形成を決めていたが、AIやDXの進化、働き方改革等により自由度が増し、自分自身でキャリア形成「キャリア自立」することが必要であるということに深く感銘を受けました。
そして人生は短いということを念頭において仕事もプライベートも充実させたいと思います。

異動も経験しこれから社会人としてどのように成長していけば良いか悩んでいる時期だったため、先生やグループの方の経験をお伺いできて貴重な時間となりました。
感覚的にはすでに人生の半分が終了していることに焦りを感じたため、これまでより充実した生活を送れるように努力したいと思いました。自分に部下ができたときのサポートの仕方等を今後学びたいと思いました。

キャリア形成の本質は、「自分軸」を持つことであるということ学びました。これまで自分のキャリアというものを思い浮かべるときは、漠然と会社の中での定年までの自分というように、会社を基点に考えてしまっていたが、それでは不十分だということを教えていただきました。また、研修の中でお話いただいた、子どもの心臓のペースメーカーの部品をセットする仕事に従事される方が、自分の仕事は子どもの命を救うことであると答えられたというお話には非常に胸を打たれました。自分の仕事がどのように社会・会社に価値を与えるものか、また与えるべきものであるかを考え直す機会となりました。
これから社会で生き残っていく人間は、現状に甘んじることなく自らキャリアを描いていける人財であるという一方で、会社としてもこうした人財の後押しをしながら支えていく必要があり、今後の課題であると感じました。ジョブ型雇用というものも言われていますが、こういった転換をどうしていくのかも学びたいと思いました。

キャリアとライフは、今まで別物のように考えていました。しかしながら、計画的偶発性理論を初めて学び、個人のキャリアの8割は、誰もが予想しない出来事によって決定されることを知りました。確かに、これまでの人生を振り返ると、予期もしない出来事が沢山起こり、それに対応し、良くも悪くも乗り越えられてきたことを思い出しました。
また、衝撃だったのは、30才くらいで人生の半分が終了しているということです。時間は無限にあるわけではないということを再認識することが出来ました。
働く環境や世界情勢が目まぐるしく変化していく中で、セルフマネジメントをするために人権や精神論を学びたいと思いました。

キャリアデザインを形成する上で、今までは自分自身と会社の視点で考えることはありましたが、今回の研修を受けて、社会という視点からも考える必要があるという気づきがありました。
今回学んだことを参考に自分のキャリアプランをあたためて考えたいと思います。

ついつい日々の目先の業務に気をとられてしまい、3つの視点から考える「社会・会社・自分」のうち、「社会」の視点が疎かになっていることを認証した。
また、「社員が上、トップが一番下の逆ピラミッド型組織」が今後の新たな組織のカチではないか、という講義であるが、ちょうど社内研修において新任のCEOも同じように、「管理職は、“部下を管理するのではなく、“サポート”するサポート職だと自分は考える」いわれており、今回まさにそうだと思った。

今の学生は、定年まで一生この会社で勤めるとして入社している者が10%以下ということに驚きました。
そういった考えの方が入社された時に、真剣に教育しても良い人材がにすぐ退職されないような環境にするのはどのようにすべきか、どういった対応をすることがよいのかを、もっと知りたいと思いました。

キャリアとは何かを今一度立ち返って勉強できたことがよかったです。キャリアを考えるといわれますが、なにを考えればいいのかわからなくなってきたので、社会、会社、自分の観点で考えればよいとのこととても学びになりました。
またやりたいことや夢がなかったのも、なくても大丈夫との言葉ですごく安心できました。
社会、会社に対して今後自分の付加価値を提供していかないといけない中で、キーワードの一つに「自分しかできないこと」とのキーワードがあったかと思います。
自分しかできないことはないなと感じているので、自分だけの付加価値の作り方を学びたいと思いました。

実際の時間軸と、体感する時間軸が違う感覚を数値化し、可視化すると、寿命90歳の場合でも、28歳が折り返し地点になることが興味深かったです。
日本企業がジョブ型に変化する中で、やりたいことがない学生の悩みが挙げられ、仕事を通じた価値提供の考え方を説明頂きました。
初級でもありやや学生向けに感じましたので、今後は、更に、今置かれている状況でどうするか、考えていきたいと思いました。メンバーシップ型であっても本質は同じと考えており、自分自身の問題意識が会社が提供する付加価値と一致する状況を選択する（＝就職）までは実現しているので、会社の評価制度が変わろうとしている中で、実現したいキャリア、取るべき行動、必要になる能力を棚卸してその先のキャリアデザインを考えていきたいと思います。

キャリアデザインを考えるうえで、人任せのキャリア形成ではなくて、社会に貢献できる人になるために、自分が「今、何をすべき」を自ら考え、行動に移すことが重要であることを学びました。
社会の変化が激しい今、他社をロールモデルにするのではなく、自分自身で考え、自分なりの成長スタイルを確立していくことが必要があると感じました。

(3) 今後、具体的に自分の行動をどう変えていきたいですか。

今回の講義を受けて、まずは自分自身の知識や知見を広げていきたいという気持ちが高まりました。ちょうど仕事やプライベートも含めて自身の「主体性」について考える機会が続き、さまざまな物事に対する「自分の意見」というものが、少し欠けているのではないかと悩んでいました。そのことで、思えば、自分の内面にばかり意識が向かっていたように思います。知識をつける＝インプットすることが、これまでとは違った考え方を得て視野を広げ、アウトプットの元になるのだと考えるようになりました。そのために、積極的に色々な人の意見を聞くことを意識し、これまで手に取ったことのない書籍にも興味を持って関わることから、取り組んでいきます。

人口減少で働き手が減ると言われていても、AI技術の発展による既存の仕事の代替や、ジョブ型雇用の考えが徐々に浸透し始めている社会背景などもあり、キャリア形成の観点では厳しい時代にあることを再認識しました。個人の能力がより一層物を言う時代だと感じています。

専門性をひとつ軸に持っておきたいと改めて感じたため、まずは今取り組んでいる業務関連資格の取得を頑張りたいです。また自分が社会で実現したいと思う価値観を常に心に留め置き、日々仕事が忙しくても、目的と手段が入れ替わらないように気を付けたいです。

これまで仕事を通して実現したいことを考える際に壮大な社会課題について考えを巡らせることで疲弊していましたが、キャリアデザインを考えるにあたってまずは自分が日ごろ感じている社会の解決すべき小さな課題を挙げることから始めようと思います。また行き当たりばったりではなく、自分でストーリー・テーマを定めながらキャリアを考えていきたいと思います。

目の前の仕事に目を向けるだけでなく、これまでのキャリアを活かして今後どんなキャリアのストーリーを作っていくのか、そのために今できることは何か、考えていきたいと思います。

ワーク・ライフ・ソーシャルバランスについて考えたい。確かに自分は「就社」してしまっていて、社会のこと、税金のこと、政治のことなど、本来は知っておかねばならないことも「仕事が忙しいから」「会社がやってくれるから」と考えてしまっていたと感じた。そのため、会社人としてではなく、社会人としてのOSアップデートを行っていききたい。まずは税金のしくみを知るところから…

自身キャリアを振り返り、会社での自身の提供価値（行政経験、法令知識、人的ネットワーク）
社会での自身の提供価値（建築物・都市の安全性に関する知識）
などをさらに具体的に棚卸して、周囲に活用してもらえる方法を考える等、建設的な一歩を踏み出したいと思いました。

「人任せ」から脱却したいと心から思いました。
今まで「与えられた業務をこなす」ことに重点を置いていました。現在、周囲(他部署)から見ても「課題の多い部署」に配属になり、かなり参っていましたが、今回の講習で必要な知識を身に着けピンチをチャンスに変えて自分の価値を会社に示したい、併せて自身もバージョンアップしていこうと思いました。

セミナーで学んだ「偶然をチャンスに変える」5つのキーワードを心に刻み、日々の行動に活かしていきたいと思います。また、自己の強みをさらに伸ばし、弱みを克服するための具体的な行動計画を立てることで、社会に付加価値を提供できる人財になることを目指します。

10年後の自分がどうなりたいのかに向けて、挑戦したいことや学びたいことを今以上に積極的に取り組もうと思いました。また、人との弱いネットワークづくりをこれから意識して広げていきたいです。

まずはじめに他人任せのキャリア形成から脱皮するために、自分自身の身近なところから解決すべき小さな課題を見つけたい。その上で今の自分に何ができるのか、足りないものは何かを考えて自分のキャリアストーリーを作成したいと思います。

これまでは言われた通りに動くことが多かったと反省し、今後主体的に業務に取り組むようにしたいです。
そのためには上司の行動を見たり、様々な講師の方の講演会に参加するなどし、会社を良くするための動きを学んでいきたいと思います。

まずは職業人としての自分を定義し直し、仕事を通じて提供したい価値を常に意識して働いていきます。若い世代に対しても、近視眼的に仕事を捉えずに、そこにどんな価値があるのかを意識してもらえよう働きかけていきたいと思います。
また、会社が人を育てるという考えではなく、自分自身で生涯自分の面倒を見ていかなければならないということを念頭に、足りない知識やスキルを身につけていけるよう自己育成に努めていきます。研修で「AIは競うものではない。共存して取り入れた企業が勝ち残るだけ」ということをお話いただきましたが、こういった新しいテクノロジーもまだ全く知識がないので、学んでいきたいと思います。

「Give and Take」から「Give and Give」へ時代の変化とともに、対応するということを大前提に考えていきたいと思いました。私自身、営業という職種柄クライアントへ提案をするにあたり、ある程度意思・意見を持って発言・行動するようにしています。しかしながら、会社という組織に属している以上、一定の給与が保証されていることもあり、与えられる部分も多少ある部分があります。そこで、今一度自分の生活環境・体調面を見直し、自律権つまりは私自身のことを最大限に考慮したキャリア・ライフスタイルを考えたいと思います。具体的には、業界以外の人とのコミュニケーションの場を増やす行動、世の中の変化（特に経済・雇用）にもっとアンテナを張るようにしたいです。

研修で「解決すべき小さな課題」を見つけるという内容がありました。まずは自身の環境において考えられる課題を見つけ、改善に取り組むことを実践していきたいと思います。また自分の置かれている状況やどうなっていきたいのかを考える時間を作りたいと思います。

「人任せのキャリア形成」の姿勢はとっていないが、ただ、「生活の糧」として今の会社へ依存していることには変わらない。
人生を15年スケールで考えた場合、現在 半分になるので、その残された人生において、自分は「どんな価値を会社・社会へ提供できるか」に意識をおいて自分の「価値提供」を見出していく必要がある。
また、「人生は意外と短い」を心にとめておきます。

人生を15年スケールで考えた場合、すべての年齢で自分は遅れていると感じました。
すぐに追いつくことはできませんが人材育成の能力を上げるためにも、今まで避けてきたコミュニティを広げていく必要があると感じたので、自分からコミュニティを広げて自身の足りない知識を得たいと思います。

今まで与えられた仕事をこなしていく、また他の人の零れ落ちた仕事をフォローすることしかしてこなかったため、自分ができる仕事を自主的にやっていきたいと思う。
今すぐに自分の付加価値は身につくものではないと思うので、様々な業務をこなすことで自分にしかできないことを見つけていきたい。
また後輩育成にも力を入れていきたいと思う。自分の持っているものは自分が集めてきた情報なので出し惜しみをしてきたが、他人に提供することをしていく中で、自分も新たな情報を集めるアンテナをはっていきたい。

偶然の出来事にどう対応するかによって、キャリアが形成されるという通説の通り、発生する出来事は日頃の振る舞いによりチャンスとして現れると思います。自分自身のキャリアにおいて何を最優先するかは、自分の責任で選択し、偶然のチャンスには柔軟にトライしていきたいと思います。

「夢（目標）」を明確にするために、社会にある「解決すべき小さな課題」を見つけ、それを解決するためにどうすべきか、自分に何ができるかを考えながら、少しずつビジョンを持ち、キャリア形成につなげていきたいと思います。